運営委員会だより

日本語を壊したのは誰だ

「まだ報告を受けてない」、「事実とすれば大変だ」、「早速調べて善処する」。大臣はこの三つのフレーズを覚えていれば野党から不祥事を追及されてもなんとかしのげる—と言われていたのは昔の話。まだ牧歌的な？やり取りの時代でした。

この１０年近く「政治が日本語を滅茶苦茶にしてきた」ように思います。ウソ、隠蔽にとどまらず、質問にまともに答えずはぐらかし、論点をすり替える—。かみ合わない議論を聞いていると、徒労感で精神衛生上もよくありません。

「通じ合う会話」のよろこび

その点、言葉が通じ合う会話を楽しめるのが運営委員会の魅力の一つです。こんな至極当然のことが貴重なものと思えるのは、現代の悲劇なのかもしれません。

３月の話題の一つは、県教委の「第２期高校教育改革推進計画（案）」に対するパブリックコメント応募についてでした。

行政が何事かを計画する際、広く県民の意見を求めるとしてパブリックコメント(パブコメ)募集を始めたのはいつ頃からでしょうか。

もちろん広く県民、市民の声を聞こうとするのは悪いことではありません。ただパブコメの反応が施策にどう生かされているのか、を疑問に感じています。「聞きっぱなし」になっていないか、です。

内藤　真治

「民意を聞いたふり」はダメ

先ごろ、原発事故で溜まったトリチウムを含む汚染水の海洋投棄について漁業者の意見を聞く会が開かれました。テレビを見ていて驚いたのは、説明に納得できない人が質問したとき、開催した側が「今日はみなさんのご意見を伺うのが目的で、質問に答える場ではありませんから」と取り合わなかったことです。

「疑問には答えないが、一応意見は聞く。その場さえ作れば一方的な押し付けにはならない。採否はあくまでこちらの判断」の考えが透けて見えます。形式だけは民意を問うているように見せますが、その実、権力は思い通りに事を運んでいる、と見るのはゲスの勘ぐりでしょうか。

こうした「民意を聞いたふり」を私たちは批判しながらも、だからといって「どうせそんなものさ」で済ましてしまう「冷笑主義」からは何も生まれないでしょう。

だから、パブコメ募集にはどこまでも真面目に応えていくことが必要なのだと思います。その先をも見据えながら‥‥。

これからどうなる？

先の見えないコロナ禍で、フォーラムの活動も大幅に制限されてしまいました。「すなっぷ」の取材は止まり、開店休業状態が続く部会もあります。

多分に他力本願のワクチン接種ですが、先が見えない現状に手探りが続きます。

今後の主な予定

５月　７日（金）１３時～	スダジイ楽書会（フォーラム）
５月１４日（金）１４時３０分～	原発と自然エネルギー研究部会（フォーラム）
５月１５日（土）１１時～	３色パステル画寺子屋（フォーラム）
５月２１日（金）１３時～	スダジイ楽書会（フォーラム）
６月２６日（土）１３時３０分～	フォーラム総会（教育会館）

あくまでも予定であり、新型コロナ感染症の拡大状況によって中止になる場合もあります。
参加を希望される方は事前に電話かメールで確認してください。

育ちと学び　No. 47　　ぐんま教育文化フォーラム
2021 年 4 月 30 日　発行
〒371-0026 前橋市大手町 3-1-10 群馬県教育会館 3F
[TEL・FAX] 027-235-8876　[IP 電話] 050-3419-3803
[E-mail] g-kyoken@nifty.com
[URL] http://gkb-forum.sakura.ne.jp

スマホからホームページへ